



# 米国経済の 真のダイナミズムを捉える

Russell 1000® Index

2023年10月

著者

**Catherine Yoshimoto**

Director,

Product Management

[catherine.yoshimoto@lseg.com](mailto:catherine.yoshimoto@lseg.com)

**広瀬健**

インデックス投資部門日本代表

[ken.hirose@lseg.com](mailto:ken.hirose@lseg.com)

米国の株式市場は世界最大の規模を誇ります<sup>1</sup>。Apple、Microsoft、Amazon、Tesla、Alphabet、Metaをはじめ、世界的に有名な製品・サービスを提供する大企業が名を連ねています。そして新たに米国経済の将来を担う次世代の企業が今後も出現し続けることが見込まれます。ダイナミックな経済成長を続ける市場では、代表企業の顔ぶれもダイナミックに変わるものです。

こうした米国経済のダイナミズムをタイムリーかつ適切に反映することが、米国株式指数には強く求められます。本稿では、Russell 1000 Index が、世界経済の中で最も大きな存在である米国大型株式市場の真のリターン、そして真のダイナミズムを最もタイムリーかつ実践的に表現できるベンチマークであることを明らかにします。

<sup>1</sup> 2023年6月30日現在、FTSE Global All Cap Index (49の先進国および新興国市場の大・中・小型株で構成されるFTSE Russellのベンチマーク)の構成銘柄の中で米国株式市場が占める割合は61%超。世界2位の株式市場(日本)のウェイトは同日時点で6.2%です。



**FTSE  
RUSSELL**

An LSEG Business

# Russell 1000 Index が米国の投資家に支持される理由

すべての米国大型株インデックスが同じというわけではなく、十分な情報を持ち合わせていない人にとってその相違は意外かもしれません。

過去 40 年にわたり、Russell 1000 Index は以下の点で卓越していました。

- 他の大型株インデックスより 10 年も早く、将来の値上がり銘柄を組み入れ
- 浮動株調整のメソッドロジーを取り入れた初の株式インデックス
- 他の Russell インデックスとともにモジュール方式のインデックス・ファミリーを構成
- グロースおよびバリュー・スタイルのセグメントを初めて提供
- インデックスの利便性を向上させるためにメソッドロジーを定期的に改善

客観的で正確かつ透明性の高いベンチマークを構築するには、「単純」なメソッドロジーを用いるべきだと FTSE Russell は考えています。言い換えれば、ベンチマークの基盤となるルールは、市場や取引銘柄に関する特別な知識を必要としないものであるべきです。同様に、構成銘柄の選定方法に関しても、主観的な要素は排除する必要があります。例えば、Russell 1000 と S&P500 はどちらも米国大型株のベンチマークとして広く利用されていますが、その構築メソッドロジーは異なります (下表参照)。

## ベンチマーク構築の違い - Russell 1000 と S&P500 の比較

|                 | Russell 1000 Index                                                                                                                                                                             | S&P 500® Index                                                                                                                                                                                                                                                                                                     |
|-----------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| カバー対象           | 市場全般をカバーする Russell 3000E Index の年次銘柄入替時における時価総額上位 1,000 銘柄                                                                                                                                     | 大型株を代表する S&P Composite 1500 Index の構成銘柄                                                                                                                                                                                                                                                                            |
| 銘柄入替            | 毎年 6 月の第 4 金曜日に銘柄の完全入替を実施<br>4 月末時点の時価総額に応じて全適格銘柄を順位付け<br>上位 1 ~ 1,000 銘柄に順位付けされた銘柄を組み入れ<br>ブレイクポイントから ±2.5% の範囲で調整を行うことにより入替率を緩和                                                              | 年次または半年ごとに実施される定期的な入替プロセスはなし<br>委員会の決定により必要に応じて変更。3 営業日未満の通知期間を置いて変更される場合もある<br>標準の適格基準すべてに合致しなくても銘柄が S&P600 または 400 から移行する<br>場合あり                                                                                                                                                                                |
| 時価総額レンジ         | 時価総額のブレイクポイントは年次銘柄入替時に変更<br>2023 年のレンジ: 42 億ドル ~ 2 兆 6,847 億ドル (調整域を含めると下限は 24 億ドル)                                                                                                            | 時価総額レンジは適宜見直される<br>大型株レンジ: 127 億ドル以上                                                                                                                                                                                                                                                                               |
| 新規組入銘柄の<br>適格基準 | 設立国、本社、最も流動性の高い米国の証券取引所に基づく米国企業<br>直近の銘柄入替時点で、時価総額が Russell 1000 の市場調整時価総額の区分に該当<br>浮動株数または市場で取引可能な株式数が 5% を超えている<br>議決権の 5% 超を制限のない株主が保有<br>直近の銘柄入替時において、新たな株式クラスの平均日次ドル取引高がグローバル中<br>央値より大きい | 年次報告書 10-K に基づく米国企業であり、適格な米国取引所に「プライマリー上<br>場」しており、米国における資産/収益が 50% を超えている<br>直近の四半期を含む 4 四半期連続でプラスの利益を計上している<br>投資可能ウェイト・ファクターが 0.10 以上<br>トラッキング・ストックは不適格<br>浮動時価総額に対する日次取引高の比率 (コンポジット・プライシングと取引高に基<br>づく) が 1.00 以上であり、評価日前の半年間の各月の取引高が 25 万株以上の銘柄<br>セクター・バランスが S&P Total Market Index に準拠している<br>議決権に関する制限なし |
| IPO             | 四半期ごとに適格 IPO を追加                                                                                                                                                                               | 定期的な IPO 追加プロセスなし<br>IPO が適格銘柄とされるには、上場後 12 か月経過している必要がある                                                                                                                                                                                                                                                          |

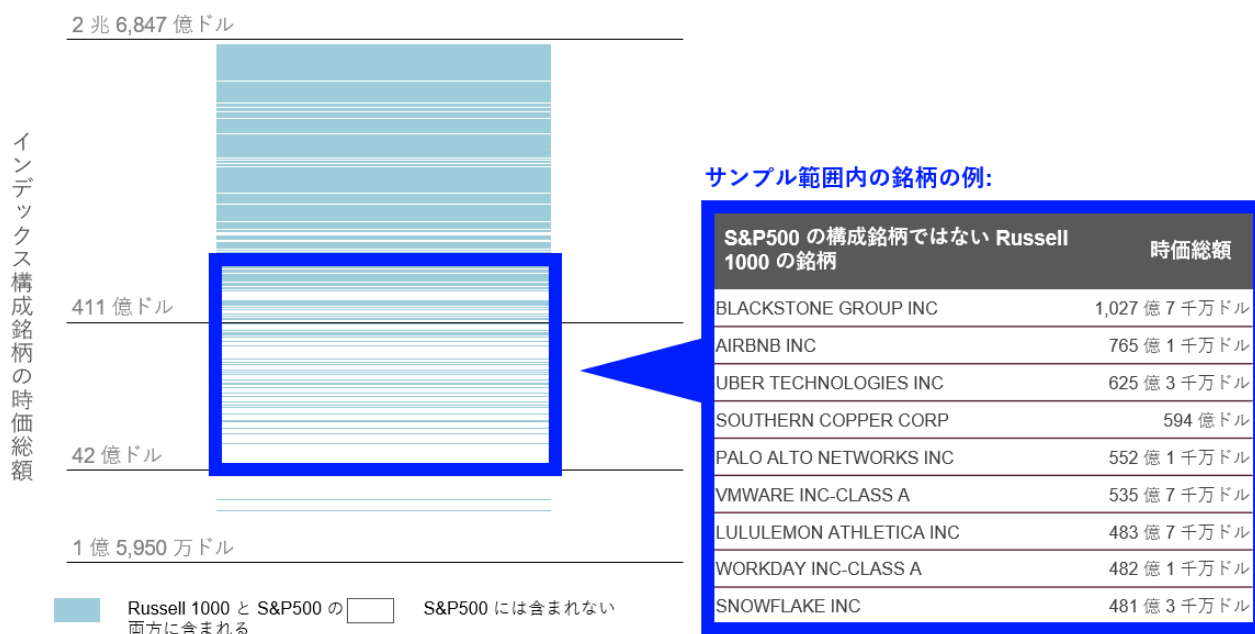
出所: FTSE Russell および S&P (<http://us.spindices.com/>)。2023年6月時点。

## 時価総額上位の銘柄で構成されるか否か

これら 2 つの大型株ベンチマークにおける最も重要な違いは、構成銘柄の選定方法にあります。Russell 1000 Index は米国株式市場の時価総額上位 1,000 銘柄で構成されていますが、S&P500 は一般的なイメージとは異なり、必ずしも米国株式市場の上位 500 銘柄で構成されるわけではありません。代わりに、S&P Dow Jones Indices の専任スタッフで組織される委員会が、必要に応じて構成銘柄を入れ替えています。

毎月の会合で同委員会は、インデックスの運用方針を修正することができます（銘柄の選定ルールを含む）。また、委員会はその裁量で、時には 3 営業日未満の通知期間を置いてインデックスを修正することも可能です。

### 構成銘柄の違い - Russell 1000 と S&P500 の比較



出所: FTSE Russell、iShares S&P500、400、600 ETF 構成銘柄 <https://www.ishares.com/us/>、  
<http://www.standardandpoors.com/indices>。2023 年 4 月 28 日時点のデータ

また、Russell 1000 は四半期ごとに適格な新規公開株 (IPO) をインデックスに追加していますが、S&P500 には定期的な IPO 追加プロセスは設けられていません（ただし、IPO の組み入れ条件として 12 か月間の取引実績を求めるルールは存在します）。

これらの構築メソッドロジの違いは、これまで実用上、多大な影響を及ぼしてきました。例えば、Russell US インデックスには S&P500 より 10 年も先に Microsoft、Amazon、Netflix、Alphabet、Google といった急成長ハイテク株が組み入れられていました。FTSE Russell では、インデックスの組み入れ基準を満たせば、このような銘柄を直ちに Russell US インデックスに組み入れます。しかし、S&P500 への組み入れは S&P 指数委員会の承認に委ねられていたため、大幅に遅れたのです。

Microsoft、Amazon、Netflix、Tesla の場合、Russell 1000 への組み入れ時から S&P500 に組み入れられるまでの間に、1,000 ~ 17,000% もの株価上昇を遂げています。

#### インデックスへの追加時期を考慮したパフォーマンス比較 - Russell 1000 対 S&P500

| 会社名                              | IPO 上場年月    | Russell 1000<br>へ追加 (A)            | S&P 500<br>へ追加 (B*) | A から B* の期間中<br>の株式の累積トータル・リターン<br>(%) | A から B* の期間<br>中の S&P 500 に<br>対する Russell<br>1000 の累積超過<br>リターン |
|----------------------------------|-------------|------------------------------------|---------------------|----------------------------------------|------------------------------------------------------------------|
| Apple                            | 1980 年 12 月 | 1981 年 3 月                         | 1982 年 11 月         | 30%                                    | -0.7%                                                            |
| Microsoft                        | 1986 年 3 月  | 1986 年 3 月                         | 1994 年 6 月          | 3,270%                                 | -6.1%                                                            |
| Starbucks                        | 1992 年 6 月  | 1993 年 6 月                         | 2000 年 6 月          | 523%                                   | -6.0%                                                            |
| Amazon.com                       | 1997 年 5 月  | 1997 年 7 月 (R2)<br>1998 年 7 月 (R1) | 2005 年 11 月         | 3,043%                                 | 6.4%                                                             |
| Netflix                          | 2002 年 5 月  | 2002 年 6 月 (R2)<br>2009 年 6 月 (R1) | 2010 年 12 月         | 2412%                                  | 6.7%                                                             |
| Alphabet<br>(Google)             | 2004 年 8 月  | 2004 年 9 月                         | 2006 年 3 月          | 201%                                   | 2.5%                                                             |
| Tesla                            | 2010 年 6 月  | 2010 年 9 月                         | 2020 年 12 月         | 17,192%                                | 6.1%                                                             |
| Meta Platforms<br>Inc (Facebook) | 2012 年 5 月  | 2012 年 6 月                         | 2013 年 12 月         | 46%                                    | 0.8%                                                             |
| Lululemon<br>Athletica           | 2007 年 7 月  | 2015 年 6 月                         | 未定*                 | 480%                                   | -6.1%                                                            |
| Block Inc<br>(Square)            | 2015 年 11 月 | 2015 年 12 月                        | 未定*                 | 409%                                   | -3.9%                                                            |
| Moderna                          | 2018 年 12 月 | 2019 年 3 月                         | 2021 年 7 月          | 1,638%                                 | 2.0%                                                             |

出所: FTSE Russell。(R2) と (R1) の記載はそれぞれ Russell 2000 への追加日と Russell 1000 への追加日を表しています。インデックス算出開始日以前のすべてのパフォーマンスはバックテストされたパフォーマンスです。S&P500 に銘柄が追加されていなければ、パフォーマンスは 2023 年 6 月 30 日時点のものとなります。過去のパフォーマンスは将来の結果を保証するものではありません。2004 年 9 月以来、Russell US インデックスは四半期ごとに IPO の組み入れを行っているほか、毎年 6 月に銘柄入替を実施しています。

---

## 適切な大型株ベンチマークを選ぶことの意義

ベンチマークは、さまざまな市場参加者によって投資プロセスのあらゆる段階で利用されています。しかし、特にダイナミックな成長を続ける米国大型株市場に投資する場合は、その変化と成長をタイムリーに捉えるためにも適切なベンチマークを選ぶことが重要です。

効果的に特定の市場または市場セグメントのパフォーマンスやリスク特性を測定するには、ベンチマークは①客観的で、②モジュール化され、かつ③信頼できるものでなければなりません。

これら 3 つの特性に欠けるベンチマークは、インデックス連動型のポートフォリオの目指す市場エクスポージャーを損ない、そのリスク/リターン・プロファイルを適切に反映できません。その結果、誤った投資判断や予期せぬ事態を招くことも考えられます。

世界情勢が大きく、それもかなりのスピードで変化する現代社会においてもなお、世界経済をけん引し続ける米国。そんな米国経済のダイナミズムをタイムリー且つ適切に反映することは、米国株式指数には強く求められるべきでしょう。本稿でご紹介したように、Russell 1000 Index は透明性の高いルールベースのメソドロジーで構築され、メンテナンスも明瞭かつ一貫した方法で行われています。ダイナミックな成長を続ける米国経済の真の力を、事実に基づいて迅速かつ適切に表現する。米国の投資家の間で幅広く Russell 1000 Index がベンチマークとして採用されている事実は、この哲学に投資家達が共感していることを表しているのかもしれませんが。

### <Appendix> Russell US インデックスとは？

Russell US インデックスは、米国株式市場の動向を反映した FTSE Russell の代表的なインデックス・ファミリーです。プロの投資家によって広く利用されており、運用資産残高は 12 兆ドルを超えます<sup>2</sup>。1984 年から算出が始まった Russell US インデックスは、1978 年 12 月 29 日以降の過去データをカバーし、40 年以上の歴史を持ちます。

Russell US インデックスは時価総額加重平均を行い、さらに浮動株調整<sup>3</sup>によって米国における投資機会の全体像を株式投資家に提供しています。当インデックス・ファミリーは、米国株式市場の投資可能な時価総額の約 99% をカバーしています。

---

<sup>2</sup> 2022 年 4 月 1 日に公表された 2021 年 12 月 31 日時点の eVestment (機関投資家向け資産)、Morningstar (個人投資家向け投資信託、保険商品、ETF)、FTSE Russell のまとめによる他のパッシブ資産のデータ。運用資産残高 (AUM) のデータには、合成ベンチマークが含まれ、先物やオプションは除外されています。重複を避けるため、FTSE Russell が直接収集したパッシブ資産は第三者データから除外されています。FTSE Russell はデータの正確性について保証するものではありません。

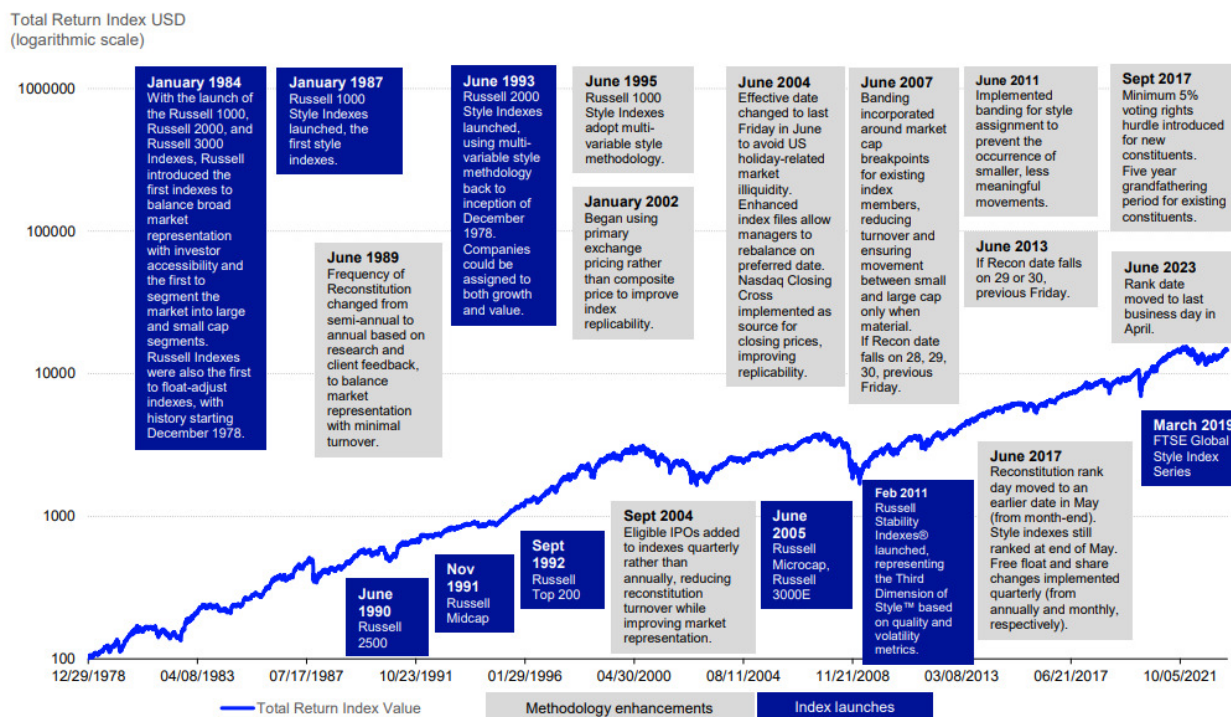
<sup>3</sup> 浮動株調整とは、流動性の確保を目的として、インデックスから制限株式、取引できない株式、その他の買付できない株式を除外することをいいます。[Free\\_Float\\_Restrictions.pdf \(ftserussell.com\)](#)

Russell インデックス・ファミリーには、以下をはじめとする著名なベンチマークが含まれます。

- **Russell 1000® Index:** 米国大型株 1,000 銘柄から構成される大型株のベンチマーク
- **Russell 2000® Index:** 時価総額順位 1,001 ~ 3,000 位の銘柄で構成される中小型株のベンチマーク
- **Russell 3000® Index:** Russell 1000 と Russell 2000 を組み合わせたオールキャップ・インデックス
- **Russell スタイル・インデックス:** 米国株式市場をスタイル・カテゴリー別（グロース/バリュー、ダイナミック/ディフェンシブ）に分類

1984 年以來、Russell US インデックスの組成を担当する者は、投資家の要望に応えるため、メソドロジーの重要な改善を定期的に行っています。Russell は市場を包括的にカバーした総合インデックスを世界で初めて構築し、さらに時価総額別、スタイル別（グロース/バリュー）の分類を導入しました<sup>4</sup>。また Russell は、浮動株調整インデックス・ファミリーを最初に構築した実績もあります。

### Russell US インデックス - 拡張・強化の歴史



出所: FTSE Russell, 2023 年 8 月

<sup>4</sup>Jon A. Christopherson, David R. Cariño and Wayne E. Ferson, Portfolio Performance Measurement and Benchmarking, New York: McGraw Hill (2009) 329 ~ 330 ページ

---

## Russell US インデックスの起源

Russell インデックスは、資産運用会社の評価や退職年金制度の設計に S&P500 指数を採用していた Russell の大口コンサルティング顧客の要望を受けて 1984 年に算出が開始されました。

Russell のコンサルタントとその顧客は、S&P500 指数に採用されていない銘柄をポートフォリオに組み入れているために評価が難しい運用会社の存在を以前から認識していました。カバー範囲の広い Wilshire 5000 が解決策とされていましたが、同インデックスに含まれる時価総額の小さい銘柄に関する情報は信頼性に欠けていました。特に、相場が適時に反映されない点が問題でした。Russell のお客様はより優れたベンチマークを求めていました。

従来の米国株式ベンチマークにこうした欠点が見られたことから、Russell 3000 Index の公表に至りました。このインデックスは、市場を幅広く反映し、さまざまな投資家が利用できるうえ、浮動株調整も適用した最初のインデックスでした。

### モジュール式の設計とは？

他の一般的な米国株式インデックス・シリーズとは異なり、Russell US インデックスはモジュール方式で設計されています。これにより、隣接するインデックス間で構成銘柄の重複を生じることなくインデックスを組み合わせることが可能になります。

そのため、Russell 3000 Index は、Russell 1000 Index と Russell 2000 Index の組み合わせと同等です (下図参照)。また、Russell スタイル・インデックスに関しても、重複を生じることなく組み合わせることが可能です (Russell 1000 Value と Russell 1000 Growth を組み合わせると Russell 1000 Index になります)。

このモジュール式の設計が施された Russell US インデックスは、投資ポートフォリオ運用において幅広い用途に適しており、パフォーマンスやリスク測定にも適しています。

## Russell US インデックスのモジュール式的设计

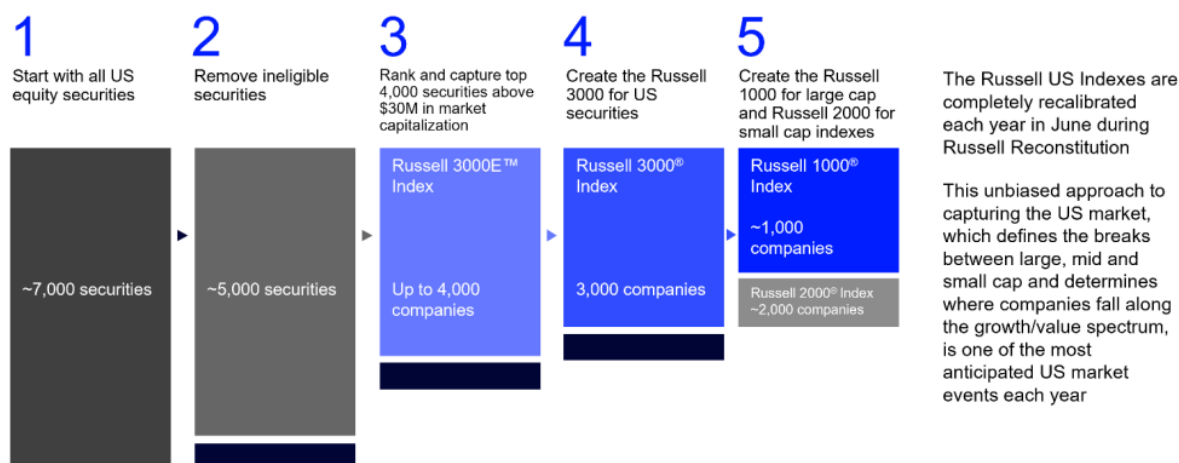


出所: FTSE Russell。2023年4月28日時点のデータ。Russell Indexの構成銘柄は、2023年4月28日のランキング日時点の暫定的な入替銘柄であり、2023年6月23日の取引終了後に有効となります。四捨五入の結果、合計が100%にならない場合があります。Russell Indexの時価総額のブレイクポイントは、2023年の銘柄入替時点の新規組入銘柄に基づいています。上記の時価総額の範囲は、新規組入銘柄に適用される絶対的なブレイクポイントであり、時価総額の区分用の幅は含まれていません。時価総額の区分には、特定のブレイクポイントの前後に設定される $\pm 2.5\%$ の幅も含まれます。詳細はRussell USインデックスの構築とメソドロジーに関する文書を参照するか、FTSE Russellのクライアント・サービス担当にお問い合わせください。

### Russell 1000の構築

Russell 1000の構築には透明性の高いルールベースのメソドロジーが用いられ、米国株式市場の大型株セグメントを偏りなく反映しています。構築の過程は5つのステップに分かれます(フローチャート参照)。

### Russell 1000の構築



Note: If there are fewer than 4,000 eligible companies above \$30M in size, the Russell 3000E will contain fewer than 4,000 companies.

Source: FTSE Russell, August 2023



## 市場全体から開始

まず、すべての米国上場株式 (約 7,000 銘柄) の情報を収集します。

## 不適格銘柄を除外

最低株価以下で取引されている銘柄、流動性が低い銘柄、発行総数に対し取引可能な割合が低い銘柄、議決権が制限されている銘柄など、不適格な銘柄を除外します。このステップで候補は約 5,000 銘柄まで絞られます。

## Russell US インデックスの組み入れ/除外基準

### 組み入れ

- 米国企業に分類される銘柄
- ランキング日に米国の主要取引所に上場している銘柄

### 排除

- ピンクシート、OTC プリティンボード銘柄
- クローズドエンド型投資信託、リミテッド・パートナーシップ、ロイヤルティ・トラスト
- ブランク・チェック/特別買収目的会社 (SPAC)、ビジネス・ディベロップメント・カンパニー (BDC)
- 外国株式、米国預託証券 (ADR)
- 時価総額 3,000 万ドル未満の銘柄
- これまで株主に非関連事業課税所得 (UBTI) をもたらしていた銘柄\*
- 株価が 1.00 ドル未満の銘柄 (既存構成銘柄は過去 30 日間の平均株価を使用)
- 浮動株調整時価総額が 5% 未満の銘柄
- 議決権が 5% 未満の銘柄

### メンテナンス

- 入替日と入替日の間に除外された銘柄の補充は行われません
- 入替日と入替日の間に追加される銘柄は、スピンオフと新規公開株のみです

ルールの詳細は <https://research.ftserussell.com/products/downloads/Russell-US-indexes.pdf> でご確認ください。

## 時価総額上位 4,000 の銘柄を捕捉・順位付け

次に、時価総額が 3,000 万ドル超の銘柄に絞り込んで、上位 4,000 銘柄を捕捉、順位付けします。3,000 万ドルを超える適格銘柄が 4,000 銘柄に満たない場合、Russell 3000E に組み入れられる銘柄の数は 4,000 未満となります。

## Russell 3000 の構築

4,000 銘柄のうち、上位 3,000 までの銘柄が Russell 3000 Index に組み入れられます。

## Russell 2000 および Russell 1000 の構築

Russell 3000 Index の構成銘柄のうち、上位 1,000 位までの銘柄が大型株インデックスである Russell 1000 Index を構成し、残りの 2,000 銘柄が小型株インデックスの Russell 2000 Index を構成します。

構成銘柄が決定された後、(必要に応じて) 浮動株調整が行われ、一般的に売買可能な株式のみがインデックスに残る形となります。

## Russell 1000 のアップデートの仕組み

銘柄選定基準は、Russell 1000 などのベンチマークが対象の市場セグメントを正確に反映する上で役立ちます。しかし、信頼性と妥当性を維持するためには、Russell 1000 に最新の情報を取り入れていかなければなりません。

## 銘柄の年次入替

Russell US インデックスは毎年 6 月末に、その数週間前のマーケット・データに基づいて銘柄の入れ替えを行っています。銘柄の入れ替えとは、インデックスへの銘柄の追加および除外、ならびに構成銘柄間のウェイト調整を意味します。

株式市場の動きは活発であるため、年次入替はインデックスにとって重要な意義を持ちます。業績の良い企業は成長を続け、それに伴い株価も上昇します (下表の 2023 年 4 月時点における Russell 1000 上位 10 銘柄を参照)。株価が上昇すると企業の時価総額も増加するため、Russell 2000 から Russell 1000 に昇格した例も存在します。

## Russell 1000 の上位銘柄 (2023 年 4 月現在)

| Company            | 2023 rank by size | 2023 total market cap (billions) | 2022 rank by size | 2022 total market cap (billions) | Change from 2022 |
|--------------------|-------------------|----------------------------------|-------------------|----------------------------------|------------------|
| Apple              | 1                 | \$2,684.7                        | 1                 | \$2,545.6                        | 5.46%            |
| Microsoft          | 2                 | \$2,284.6                        | 2                 | \$2,054.7                        | 11.19%           |
| Alphabet           | 3                 | \$1,362.9                        | 3                 | \$1,524.4                        | -10.59%          |
| Amazon.com         | 4                 | \$1,082.0                        | 4                 | \$1,167.7                        | -7.34%           |
| Berkshire Hathaway | 5                 | \$717.4                          | 6                 | \$703.5                          | 1.98%            |
| Nvidia             | 6                 | \$685.4                          | 9                 | \$467.6                          | 46.58%           |
| Meta               | 7                 | \$615.9                          | 7                 | \$551.5                          | 11.68%           |
| Tesla              | 8                 | \$520.8                          | 5                 | \$896.8                          | -41.93%          |
| Exxon Mobil        | 9                 | \$480.4                          | 13                | \$386.3                          | 24.36%           |
| Visa               | 10                | \$476.9                          | 11                | \$422.5                          | 12.88%           |

Source: FTSE Russell as of April 28, 2023

一方、業績が振るわず株価も下落しているような企業は、Russell 1000 から Russell 2000 に格下げされることがあります。Russell US インデックスは、年次入替という予測可能な段取りに従い、こうした変化を確実に反映します。

## 市場の注目イベント。インデックスのブレイクポイントに「区分調整」が適用される理由

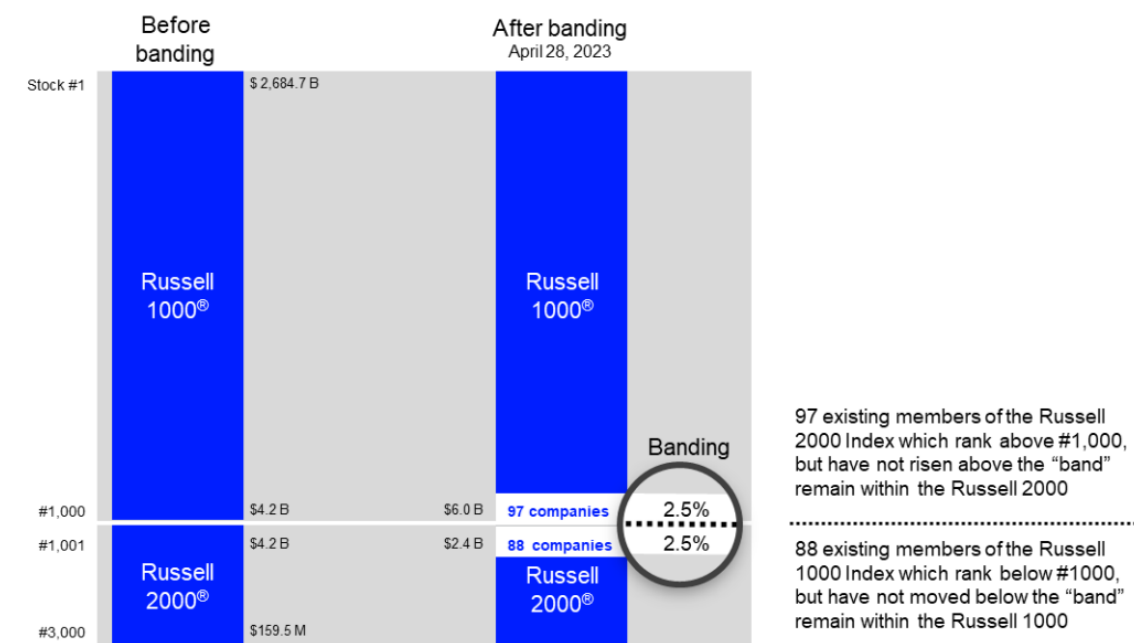
Russell インデックスは、機関投資家やアセット・オーナーがベンチマークとして計 12 兆ドル以上の資産を運用しているため、Russell の銘柄入替日は米国株式市場の年間行事の中でも特に注目されるイベントとされています。

入替日当日、Russell インデックスに連動する投資ポートフォリオを持つオーナーは、インデックスの修正に合わせて株式を売買し、リバランスを行う必要があります。2022 年の銘柄入替日には、市場が引けるまでに 1,430 億ドル以上の取引高が記録されました。Russell の銘柄入替日は、年間を通じて米国の証券取引所の取引が集中する日だと言えるでしょう。

インデックスの無用な入れ替えを避けるため、Russell では大型株と小型株の間のブレイクポイント付近に「区分調整」のメソドロジーを適用しています。

これにより、時価総額がブレイクポイントを若干下回った銘柄が出てきた場合でも、自動的に Russell 1000 から Russell 2000 に格下げさせる処理が発生しなくなります。同様に、時価総額がブレイクポイントを若干上回った銘柄が出てきても、自動的に Russell 2000 から Russell 1000 に昇格させることはありません。ブレイクポイントから  $\pm 2.5\%$  の調整域を設定したうえで、Russell はインデックスの修正を行っています<sup>5</sup>。

### 2023 年の銘柄入替における Russell 1000 と Russell 2000 間の区分調整



Source: FTSE Russell. Data as of April 28, 2023.

<sup>5</sup> 詳しい説明は、[インデックス・ルール](#)のセクション 6 を参照のこと。

---

## 信頼できるメンテナンス

Russell インデックスは年次銘柄入替を行っているだけでなく、厳格なメンテナンス・プロセスに従い、常に最新の情報を取り入れ続けています。インデックスには毎四半期 IPO を追加していることに加え、合併、株式売却、配当、株式分割などのコーポレート・アクションを日々反映しています。

こうしたメンテナンス・プロセスに加えて、正式なガバナンス・システムを通じて、このインデックス・ファミリーは市場の変化に対応し適応することができます。優れたガバナンス・フレームワークの存在は、ベンチマークの監督者がインデックスの設計に伴う不可避のトレードオフに責任を持って対処することを促します。

Russell 1000 Index は、FTSE Russell 米州地域株式諮問委員会の監督下にあります。同委員会には、株式ポートフォリオのパッシブ運用に精通している市場実務家をはじめ、資産運用会社や投資コンサルタント、投資銀行、証券取引所の各代表者が参加しています。

### 株価平均型のベンチマークとは？

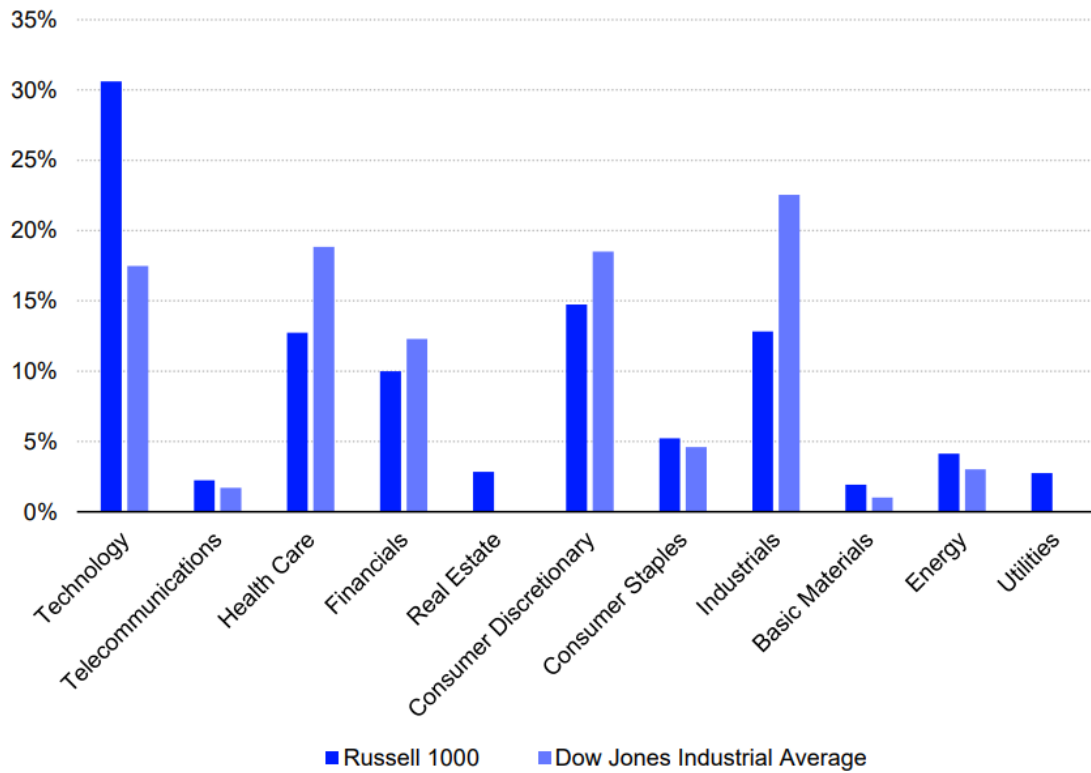
株価平均型のベンチマークは古典的で、投資機会を適切に反映しているとは言えません。株価平均型インデックスでは、構成銘柄のウェイトが時価総額ではなく株価に比例するため、株価が 100 ドルの銘柄が持つウェイトは、株価が 50 ドルの銘柄の 2 倍ということになります。前者の企業の時価総額が後者を上回っていたとしても、ウェイト付けの結果は変わりません。

1896 年に算出が開始された、有名な株価平均型インデックスであるダウ工業株 30 種平均 (NY ダウ) を例に挙げてみましょう。同インデックスを構成する 30 の銘柄は、S&P Dow Jones の専任スタッフおよび *Wall Street Journal* の代表者からなる委員会が決定します。

直近で銘柄入替のあった 2020 年 8 月 31 日、委員会は Exxon Mobil、Pfizer、Raytheon をインデックスから除外し、Amgen、Honeywell International、Salesforce を追加しました。Russell 1000 や S&P500 のような時価総額加重型インデックスと比較すると、NY ダウは、米国株式市場のパフォーマンスをこれまで押し上げていたテック株を大幅にアンダーウェイトしています (下図参照)。

米国の超大手企業や優良企業に投資を絞り込みたい投資家には、[Russell Top 50 Mega Cap Index](#)の方が優れた選択肢であると考えられます。このインデックスは、Russell の年次銘柄入替時点 (6 月) における Russell US インデックスの上位 50 銘柄で構成されます。

## Russell 1000 と NY ダウの業種別ウェイトの違い



Source: FTSE Russell, data as of June 30, 2023.

## FTSE Russell の概要

FTSE Russell は市場をリードするグローバル・インデックス・プロバイダーとして、さまざまな資産クラス、運用スタイル、運用戦略に対するお客様のニーズに応えるべく、幅広いインデックス、データ、分析ソリューションを開発・管理しています。投資可能な市場の 98% をカバーする FTSE Russell のインデックスは、グローバル市場の真の姿を表す指標として、世界各地のローカル・ベンチマークの構築から得られた専門的な知見も取り入れています。

FTSE Russell のインデックスの専門知識と商品は、世界中の機関投資家や個人投資家により広く利用されています。30 年以上にわたり、世界屈指のアセット・オーナーやアセット・マネージャー、ETF プロバイダー、投資銀行が FTSE Russell の各種インデックスを運用成績のベンチマークとして採用しており、投資ファンドや ETF、仕組み商品、インデックス・ベースのデリバティブを組成しています。FTSE Russell のインデックスは、資産配分や運用戦略の分析、リスク管理に役立つツールも提供しています。

FTSE Russell のインデックスの設計と管理の指針となる普遍的な原則の中核にあるのは、透明性の高いルールに基づくメソドロジーであり、これは、主要市場の参加者による独立した委員会からの情報に基づいています。FTSE Russell は、インデックスの革新とお客様とのパートナーシップに注力しており、最も厳しい業界基準を採用し、IOSCO の原則に準拠しています。FTSE Russell はロンドン証券取引所グループの完全子会社です。

詳細については、[ftserussell.com](http://ftserussell.com) をご覧ください。

または [info@ftserussell.com](mailto:info@ftserussell.com) に電子メールを送信いただくか、各地域のクライアント・サービス・チームのオフィスにお電話でお問い合わせください。

欧州・中東・アフリカ +44 (0) 20  
7866 1810  
北米 +1 877 503 6437

アジア太平洋  
香港 +852 2164 3333  
東京 +81 3 6441 1430  
シドニー +61 (0) 2 7228 5659

## Disclaimer

© 2023 London Stock Exchange Group plc and its applicable group undertakings (the "LSE Group"). The LSE Group includes (1) FTSE International Limited ("FTSE"), (2) Frank Russell Company ("Russell"), (3) FTSE Global Debt Capital Markets Inc. and FTSE Global Debt Capital Markets Limited (together, "FTSE Canada"), (4) FTSE Fixed Income Europe Limited ("FTSE FI Europe"), (5) FTSE Fixed Income LLC ("FTSE FI"), (6) The Yield Book Inc ("YB") and (7) Beyond Ratings S.A.S. ("BR"). All rights reserved.

FTSE Russell® is a trading name of FTSE, Russell, FTSE Canada, FTSE FI, FTSE FI Europe, YB and BR. "FTSE®", "Russell®", "FTSE Russell®", "FTSE4Good®", "ICB®", "The Yield Book®", "Beyond Ratings®" and all other trademarks and service marks used herein (whether registered or unregistered) are trademarks and/or service marks owned or licensed by the applicable member of the LSE Group or their respective licensors and are owned, or used under licence, by FTSE, Russell, FTSE Canada, FTSE FI, FTSE FI Europe, YB or BR. FTSE International Limited is authorised and regulated by the Financial Conduct Authority as a benchmark administrator.

All information is provided for information purposes only. All information and data contained in this publication is obtained by the LSE Group, from sources believed by it to be accurate and reliable. Because of the possibility of human and mechanical error as well as other factors, however, such information and data is provided "as is" without warranty of any kind. No member of the LSE Group nor their respective directors, officers, employees, partners or licensors make any claim, prediction, warranty or representation whatsoever, expressly, or impliedly, either as to the accuracy, timeliness, completeness, merchantability of any information or of results to be obtained from the use of FTSE Russell products, including but not limited to indexes, data and analytics, or the fitness or suitability of the FTSE Russell products for any particular purpose to which they might be put. Any representation of historical data accessible through FTSE Russell products is provided for information purposes only and is not a reliable indicator of future performance.

No responsibility or liability can be accepted by any member of the LSE Group nor their respective directors, officers, employees, partners or licensors for (a) any loss or damage in whole or in part caused by, resulting from, or relating to any error (negligent or otherwise) or other circumstance involved in procuring, collecting, compiling, interpreting, analysing, editing, transcribing, transmitting, communicating, or delivering any such information or data or from use of this document or links to this document or (b) any direct, indirect, special, consequential or incidental damages whatsoever, even if any member of the LSE Group is advised in advance of the possibility of such damages, resulting from the use of, or inability to use, such information.

No member of the LSE Group nor their respective directors, officers, employees, partners or licensors provide investment advice and nothing in this document should be taken as constituting financial or investment advice. No member of the LSE Group nor their respective directors, officers, employees, partners or licensors make any representation regarding the advisability of investing in any asset or whether such investment creates any legal or compliance risks for the investor. A decision to invest in any such asset should not be made in reliance on any information herein. Indexes cannot be invested in directly. Inclusion of an asset in an index is not a recommendation to buy, sell or hold that asset nor confirmation that any particular investor may lawfully buy, sell or hold the asset or an index containing the asset. The general information contained in this publication should not be acted upon without obtaining specific legal, tax, and investment advice from a licensed professional.

The information contained in this report should not be considered "research" as defined in recital 28 of the Commission Delegated Directive (EU) 2017/593 of 7 April 2016 supplementing Directive 2014/65/EU of the European Parliament and of the Council ("MiFID II") and is provided for no fee.

Past performance is no guarantee of future results. Charts and graphs are provided for illustrative purposes only. Index returns shown may not represent the results of the actual trading of investable assets. Certain returns shown may reflect back-tested performance. All performance presented prior to the index inception date is back-tested performance.

Back-tested performance is not actual performance, but is hypothetical. The back-test calculations are based on the same methodology that was in effect when the index was officially launched. However, back-tested data may reflect the application of the index methodology with the benefit of hindsight, and the historic calculations of an index may change from month to month based on revisions to the underlying economic data used in the calculation of the index.

This document may contain forward-looking assessments. These are based upon a number of assumptions concerning future conditions that ultimately may prove to be inaccurate. Such forward-looking assessments are subject to risks and uncertainties and may be affected by various factors that may cause actual results to differ materially. No member of the LSE Group nor their licensors assume any duty to and do not undertake to update forward-looking assessments.

No part of this information may be reproduced, stored in a retrieval system or transmitted in any form or by any means, electronic, mechanical, photocopying, recording or otherwise, without prior written permission of the applicable member of the LSE Group. Use and distribution of the LSE Group data requires a licence from FTSE, Russell, FTSE Canada, FTSE FI, FTSE FI Europe, YB, BR and/or their respective licensors.



**FTSE  
RUSSELL**  
An LSEG Business